

平成30年度 第1回 共立蒲原総合病院経営懇話会 議事録

1 日時 平成30年9月27日（木）午後1時00分～午後2時41分

2 会場 共立蒲原総合病院 講義室

3 出席者 8名（敬称略）

堀 場 映 子 富士市医師会

宮 崎 裕 富士市医師会 理事

富 澤 薫 蒲原由比地域包括支援センター センター長

望 月 量 美 富士川地域包括支援センター センター長

杉 原 賢 一 公認会計士

芦 澤 喜 則 富士宮市区長会 副会長(芝川支部長)

西 森 共 二 松野まちづくり協議会 会長

服 部 和 博 清水区自治会連合会 副会長(蒲原地区連合自治会長)

4 欠席者 0名

5 次第及び内容

1 開 会

2 委員委嘱

3 院長挨拶

4 自己紹介

5 会長選出

会長に宮崎裕委員（富士市医師会理事）が選任された。

6 議題

(1) 共立蒲原総合病院の概要について

(2) 「共立蒲原総合病院公立病院改革プラン」及び「共立蒲原総合病院第二次中期経営計画」について

- 入院後すぐに退院後の行き先を探さなければならないことがあるという話を聞く。当院が「回復期」病床を増やしていく計画ならば、利用率が上がると思う。
- 当院の強みは、「急性期」以外に「回復期」及び「慢性期」の3つの病床機能を持っていることである。「急性期」病棟での治療後、すぐに退院や他院へ転院するのではなく、当院の「回復期」病棟や「慢性期」病棟へ移動することができる。
- 患者家族は退院後の行き先を探すことに苦労していることを知って欲しい。当院が受け入れ体制を取ってくれば、もっと利用度は高まっていくと思う。
- 「公立病院改革プラン」の評価を行うことに不安を感じる。収支計画の評価はできるが、病院側から現在抱えている課題とそれに対する方策の実施を説明してもらわないと点検・評価ができない。
- 退院後の行き先に困ることについては、どの病院にも相談窓口があり相談員がいる。また、各地域に包括支援センターがある。当院がケアミックス病院として、目標を立てているということについて介護従事者も非常に期待している。
- 当院はこの地域にとって大きな社会資源である。地域住民は住みやすいまちづくりの一つとして当院に期待している。かかりつけ医を大事にしながら連携を取り、迷わないで

住める体制ができれば良いと思う。

- 短い入院期間の後に在宅へ帰るまでの準備期間として、当院に地域包括ケア病棟が開設されたことは非常に心強い。また、レスパイト入院として当院の地域包括ケア病棟へ入院できるということも有り難い。
- 国の動向や社会保障が心細くなってきているという説明が一般の方が理解されないと、病院から放り出されたように感じる。その部分の説明や配慮のあり方によって、患者家族の受け止め方が違ってきて、それが十分になされているならば頼りになる医療機関として受診率や稼働率が高まると思う。
- 当院の中で利益率が高い部門を押ししていけば良い。
- 当院の訪問看護ステーションは非常に優秀で、これを知っている住民には人気があると思う。
- 各部署の代表が集まる改善委員会のような委員会はあるか。
⇒収入支出に特化した委員会はないが、細かな部分についてはそれを担当する各委員会で対応している。改善委員会の設置を検討する。
- 健康診断受検者の二次検査の取り込みはできているか。
⇒結果通知の中で、当院を受診できる旨をお知らせしている。
- 正面玄関の受付の対応が非常に素晴らしい。また、患者に寄り添っている当院のスタッフは、真剣に患者と向き合っていると感じる。

(3) その他

7 閉 会

以上